



内科の病気と鍼灸－附属病院内科病棟の鍼灸治療

臨床鍼灸学ユニット 石崎直人, 福田文彦, 鈴木雅雄, 竹田太郎
内科学ユニット 山村義治, 苗村健治

鍼灸治療は内科の病気にも使えますか？

鍼灸治療は筋肉や関節の痛みによく使われますが、同時にお腹の調子を整えたり気分を和らげたりして内臓の働きにも影響する場合があります。手や足のツボに鍼をしたとたんにお腹がグルグル鳴ることも珍しくありませんし、苦しいぜんそくの発作が鍼治療でおさまることもあります。本学の附属病院内科では設立当初から入院患者さんの鍼治療を実践し、胃腸の症状、肺や心臓の病気による息切れ、手足の血流障害、糖尿病による手足のしびれ、がん患者さんの苦痛など様々な症状を和らげるお手伝いをしています。

病院のデータを参考にした鍼灸治療を実践



図1 検査データによる患者の状態把握

内科病棟に入院している患者さんの治療をするときには、レントゲンやCT、血液検査など病院で調べた様々なデータから患者さんの病状を把握してその人に合った最適な鍼灸治療を検討します。また検査データによって鍼灸治療の効果を判定しています。

今まで鍼灸治療をしてきた入院患者さんの病気を分類してみると、消化器（胃腸の症状）や代謝内分泌（糖尿病など）、呼吸器（息切れ、ぜんそく発作）、循環器（手足の血流異常や心臓病）、緩和ケア（がん患者の苦痛）などさまざまな患者さんを治療してきたことがわかります。

喘息の発作が鍼灸治療によって減少

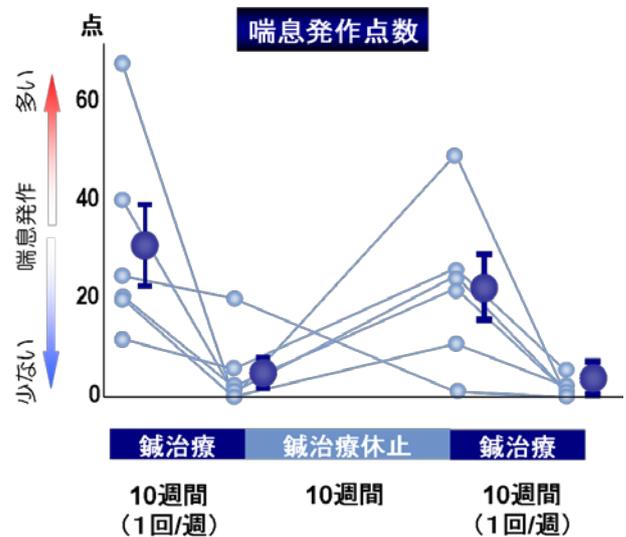


図3 鍼灸治療を行った内科入院患者の疾患別分類

鍼灸治療が気管支喘息の発作を抑える効果があるかどうか確認するために、患者さんに喘息日誌を書いてもらい、鍼治療中と鍼治療休止中で比べてみました。ごらんのように、鍼治療中を続けている間、明らかに喘息の発作点数が減っていて、鍼治療が効いていることがわかります。

入院患者の様々な症状を鍼灸で治療

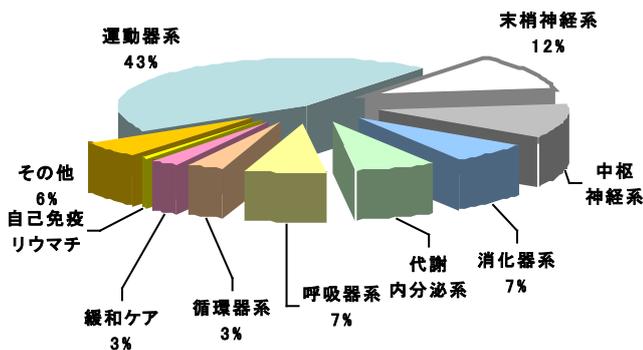


図2 鍼灸治療を行った内科入院患者の疾患別分類